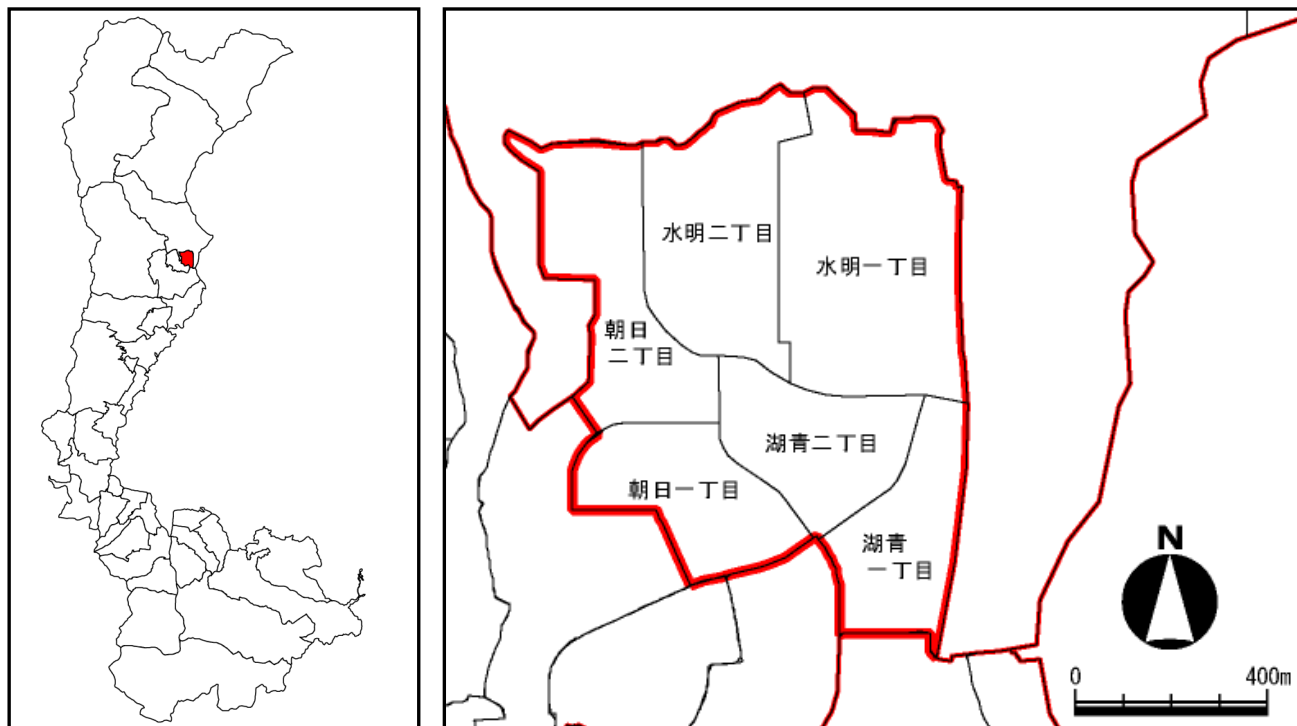


■ 学区の概況



<町丁名>

朝日一丁目、朝日二丁目、湖青一丁目、湖青二丁目、水明一丁目、水明二丁目

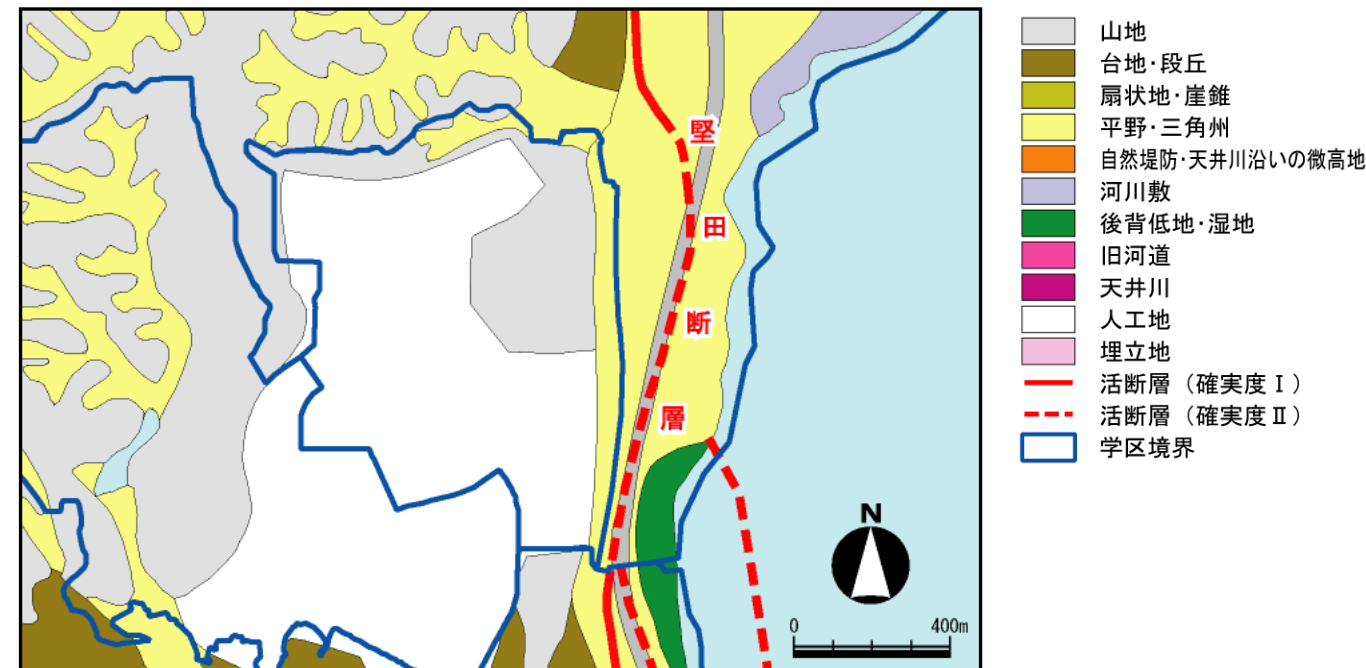
(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

小野学区は、昭和 45 年ごろから宅地開発が行われており、「びわこローズタウン」として発展してきた。その急速な人口増加に伴い、和邇小学校から分離する形で小野小学校が設置された。

小野地区は、飛鳥時代から平安時代にかけて活躍した小野氏の根拠地として栄えた。このため JR 和邇駅から JR 小野駅にかけての地域には、いたる所に古墳や遺跡、寺社が点在しており、古代の歴史に触れることができる。小野地区の中央には小野妹子公園が整備され、人々の憩いの場になっている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、地震防災アセスメント基礎情報調査を行った時点のものである。  
出典：志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

<地形の特徴>

- 学区の大部分が堅田丘陵にある。
- 宅地開発前には、低くならかな丘陵の間に多くの谷が入り込んで平地を作り、里山と水田が織りなす景観は日本の風景を代表するひとつであった。しかし現在では、こういった自然の地形が失われてきている。

<地質の特徴>

- 堅田丘陵は、古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

<活断層の特徴>

- 丘陵地と低地の間に堅田断層が分布する。これは木戸学区の南船路から比叡辻までのびる長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する逆断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
朝日一丁目	54.0	64.0	50.4	45.1
朝日二丁目	51.1	66.5	51.7	14.2
湖青一丁目	62.7	73.1	60.6	0.0
湖青二丁目	52.1	62.8	56.6	49.4
水明一丁目	58.6	72.3	67.2	39.8
水明二丁目	58.2	64.4	46.8	44.4
学区平均	55.9	67.7	55.0	34.2
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 55.9 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 67.7% で市平均の 93.9% を大きく下回り、市内で 2 番目に低い。
- 木造率は、水明一丁目 が 67.2% で最も大きく、水明二丁目 が 46.8% で最も小さい。
- 旧耐震木造建物割合は、湖青一丁目 が 0.0% であり、全ての木造建物が新耐震基準に基づいて建てられたものである。
- 木造率の学区平均は 55.0% であり、市平均の 72.7% を下回り、市内で 2 番目に低い。また、旧耐震木造建物割合の学区平均は 34.2% であり、市平均の 40.3% より低い。

■ 人口の状況

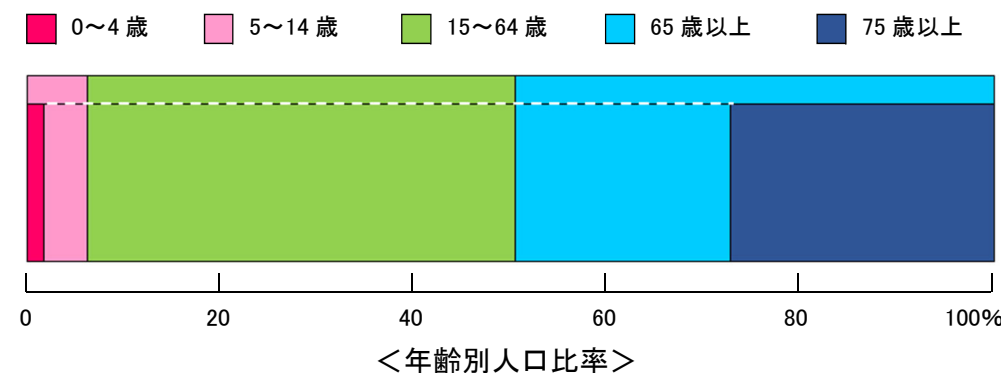
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	4,291	人		—	1
年齢別 (0~4 歳)	74	人	学区人口に対する割合	1.7	1
年齢別 (5~14 歳)	195	人	学区人口に対する割合	4.5	1
年齢別 (15~64 歳)	1,897	人	学区人口に対する割合	44.2	1
年齢別 (65 歳以上)	2,125	人	学区人口に対する割合	49.5	1
年齢別 (75 歳以上)	1,170	人	学区人口に対する割合	27.3	1
世帯数	2,020	世帯		—	2
1 世帯当たり人口	2.1	人/世帯		—	2
要介護認定者	358	人	学区人口に対する割合	8.3	3
身体障害者 (要配慮者)	65	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者 (要配慮者)	3	人	学区人口に対する割合	0.1	4
外国人居住者	33	人	学区人口に対する割合	0.8	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区のほぼ全域が人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 高齢者 (65 歳以上) は 2125 人、乳幼児 (0~4 歳) は 74 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 49.5%、1.7% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は 358 人 (8.3%)、身体障害者 (要配慮者) は 65 人 (1.5%)、知的障害者 (要配慮者) は 3 人 (0.1%) である。
- 外国人居住者は 33 人 (0.8%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <sup>(注1)</sup>	4 箇所	1
土石流危険渓流 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <sup>(注1)(注2)</sup>	4 箇所	2
土砂災害警戒区域 <sup>(注1)(注2)</sup>	8 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <sup>(注1)</sup>	0 箇所	3
山地災害危険渓流（溪流） <sup>(注1)</sup>	0 箇所	3
雪崩危険箇所 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	1
浸水想定区域 <sup>(注3)</sup> (0.0m~0.5m)	0 m <sup>2</sup>	6
(0.5m~1.0m)	0 m <sup>2</sup>	6
(1.0m~2.0m)	0 m <sup>2</sup>	6
(2.0m~)	0 m <sup>2</sup>	6
特に重要な水防区域 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	7
重要水防区域 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1: 滋賀県砂防課 (R3. 7. 16) 2: 滋賀県砂防課 (R3. 2)  
 3: 滋賀県森林保全課 (R3. 11) 4: 滋賀県砂防課 (H24. 12) 5: 農林振興課、砂防課 (H24. 12)  
 6: 淀川水系 洪水浸水想定区域図 (想定最大規模) (瀬田川上流: H31. 3. 19、瀬田川下流: H29. 3. 21、琵琶湖: H31. 3. 19、草津川: R1. 10. 1、大戸川: H31. 3. 19)  
 7: 琵琶湖河川事務所 (R2. 6) 8: 大津市産業観光部 (R3. 12)

<防災上の特性>

- 小野学区は大部分が人工地（宅地造成地）であり、防災上注意の必要な危険箇所の指定部は比較的小さい。
- 一般的に、造成地部では地震時に被害が多発することが過去の事例などにより知られているため、注意が必要である。
- 学区西部には、急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている斜面があるため注意が必要である。
- 学区の東方には、堅田断層が通過している。この断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	小野小学校グラウンド	○	○	○		水明一丁目 34-2
	比良ゴルフ場	○	○	○	○	小野 1611
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	小野市民センター	○	○	○		湖青一丁目 1-2
	小野小学校体育館	○	○	○		水明一丁目 34-2
指定避難所	(福) 小野児童館・小野児童クラブ	—				水明一丁目 37-1

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※ (福) 印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
小野市民センター	湖青一丁目 1-2	594-2000

<警察 110>

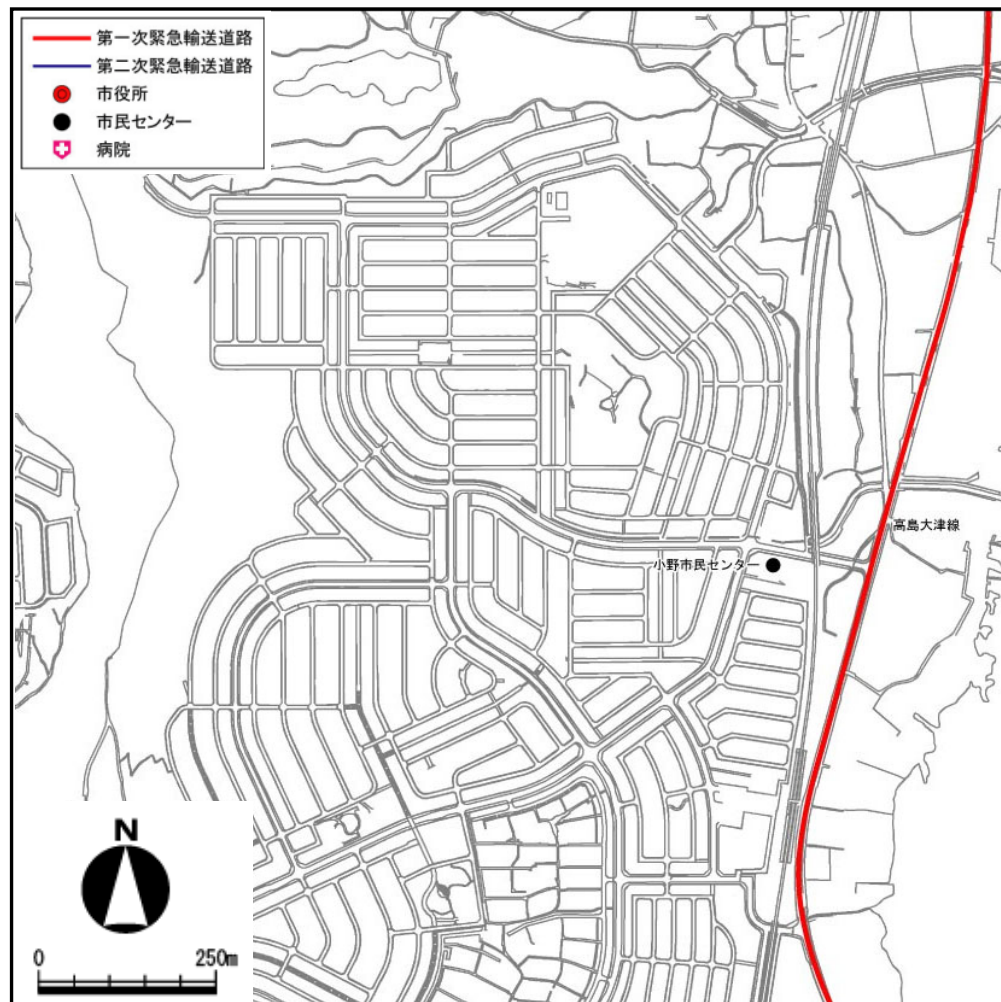
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津北警察署	真野二丁目 20-23	573-1234
小野交番	湖青一丁目 1-3	594-1110

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
北消防署	真野二丁目 23-1	572-0119
志賀分署	木戸 58	592-0119



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	2,020	5,427	957	458	1,186	32	12	19	55	21	31	3	2	2
ケース2	2,020	5,427	932	458	1,161	31	12	18	55	21	31	3	2	2
ケース3	2,020	5,427	521	482	762	10	4	6	70	26	40	4	2	2

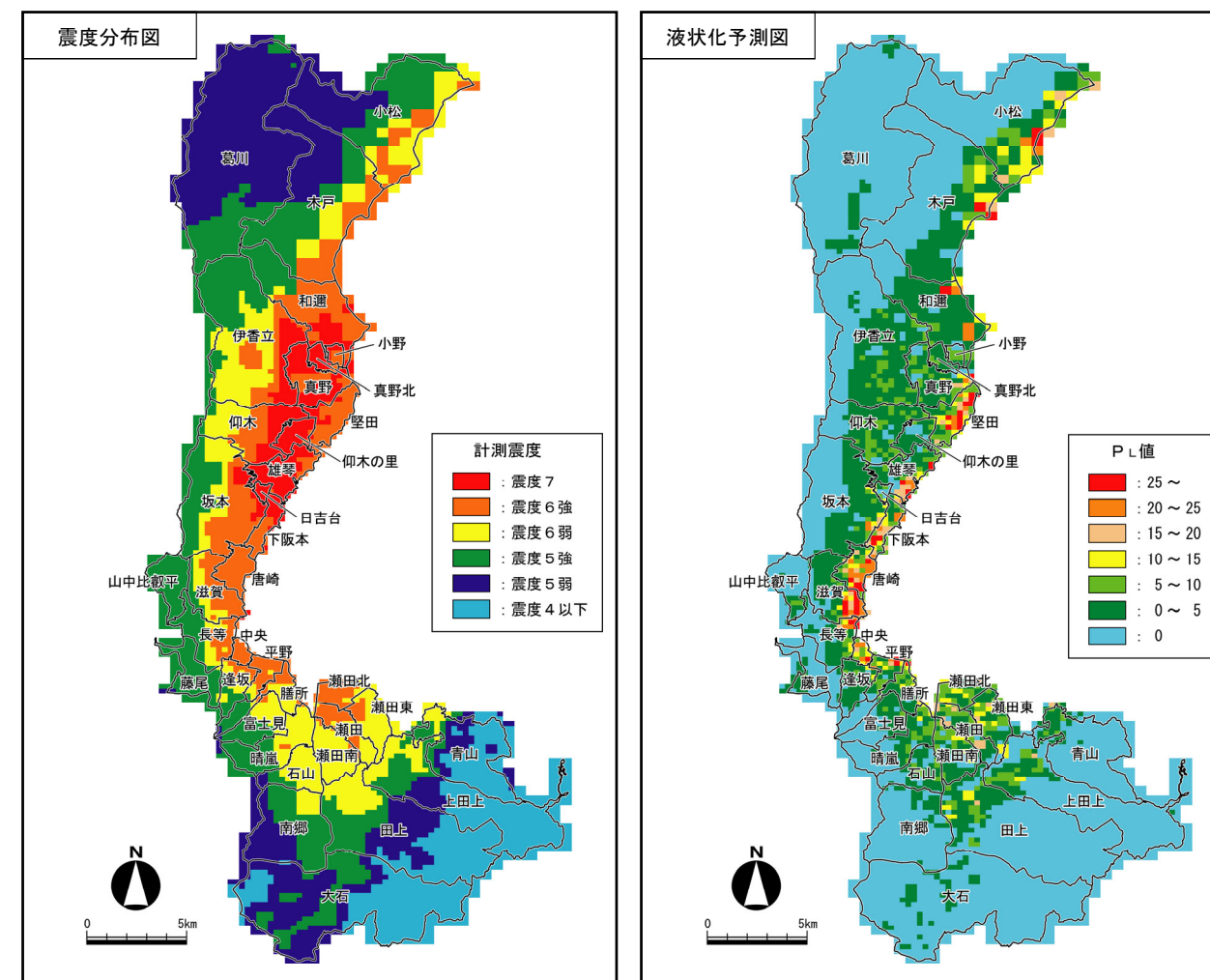
被害想定ケース	地震火災炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	2	2	1,099
ケース2	1	2	2	1,080
ケース3	1	1	1	778

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

( PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生  
PL ≥ 20 激しい液状化 )

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)